

Slovenia Monthly July 2018

スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年8月10日



～7月の主なポイント～

- 内政：**・8月1日、シャレツLMS党首は、少数与党政府の発足もあり得るとの立場を表明
・中道右派NSiが連立交渉離脱後、左派が中道左派政党との交渉を開始するものの、最終的に連立参加を拒否。他方、左派はシャレツ氏率いる少数与党政府への支持を示唆
- 外政：**・スロベニア、国境線画定問題を巡り、クロアチアを欧州司法裁判所に提訴
・人間の安全保障強化のための国際信託基金(ITF)、EUにより専門機関として認定
- 経済：**・欧州委：スロベニアの2018年GDP成長率予測は、下方修正も、依然として4.4%と高水準
・政府、NLB銀行民営化につき閣議決定。欧州委は、同提案に関し、満足の意を表明
- 社会：** ツール・ド・フランス、ログリッチ選手4位に入賞。スロベニア選手としては過去最高記録

政治

新政権樹立に向けた動き

6月3日の国民議会総選挙実施を受けて、同22日には国民議会初会合にてトニン新国民議会議長(新スロベニア・イニシアティブ(NSi, 中道右派)党首)が選出され、総選挙で第二党となった「Marjan Sarec List」党(LMS)のシャレツ党首率いる中道左派政党5党及びNSiによる連立政権樹立の可能性が追求された。7月に入り、パホル大統領と主要政党議員団長との協議における発言からも連立交渉が難航していることが明らかとなり、16日、NSiは連立交渉から離脱した。その後、総選挙で第一党となった民主党(SDS, 中道右派)、LMSともに議会過半数の支持を得られず、19日、パホル大統領による第一回首相候補指名は見送られた。7月下旬、LMS及び既存の中道左派政党4党は、NSiに代わり左派(The Left)との連立政権樹立を目指し交渉を再開したものの、左派は党内投票にて連立参加を拒否したが、中道左派政党5党による少数与党政府樹立に対する支持の可能性を残した。さらには、解散総選挙の可能性も出てきており、動向が注視される。これら動きに関する詳細は以下のとおり。

●パホル大統領と主要政党議員団長との協議【2日～6日】

(シャレツLMS党首)

(メセツ左派党首)



2～3日及び6日、パホル大統領が、主要政党議員団長と2回にわたる協議を行ったところ、SDS及びLMSの何れの政党も連立政権樹立に必要な数の国民議会議員の支持が得られていないことが判明した。同協議において、現代中央党(SMC)は、連立合意成立のためには中道右派のNSiの支持が肝要との立場を示し、社会民主党(SD)は、LMSとの連立を選好するとしつつ、中道左派、中道右派政党が混在する6政党による連立形成は極めて困難であるとの認識を示した。

また、NSiにおいては、ホルヴァットNSi議員団長が、ヤンシャSDS党首への第一回連立交渉マンデートの付与に賛成する一方で、ノヴァク前NSi党首は、ヤンシャ党首の政策は国民を分断するものであり、右派の国民党(SNS)との連立にも反対との立場を

示し、NSi内でのSDSとの連立に向けた調整が難航することが予想される。

●パホル大統領とヤンシャ党首との協議【11日】

SDSが連立政権樹立に必要な数の支持を得られていないことが判明したものの、パホル大統領は、依然としてヤンシャSDS党首に対し、19日まで首相候補任命を受諾するか否かにつき検討する時間を与えることを決定した。同大統領は、「仮に、ヤンシャ党首が連立形成に成功すれば、それは極左及び極右の主張を抑制することに対する保障を意味し、政治的安定、安全且つ確固たる未来を保障する強力且つ穩健な政府樹立に繋がるであろう」と発言した。ヤンシャ党首は、全政党に対し非公式協議に招待したいとの考えを示しつつも、連立政権樹立のためには、少なくとも他の2政党と合意する必要があるとして、連立形成は容易ではないとの考えを示した。

●NSiによる連立交渉からの離脱【16日】

NSiは、連立交渉の進捗状況に一定の評価を示しつつも、6政党により構成される中道左派連立政権の安定性につき深刻な懸念を有しているとして、LMS主導の連立協議から離脱することを決定した。またNSiは、「公的医療制度において人々に選択肢を与えることが我々の希望である」と述べ、医療分野が合意に至らなかった唯一の分野と指摘。

●パホル大統領、第一回首相候補指名を行わない意向を表明【19日】

第一回首相候補指名期限である23日を前に、ヤンシャSDS党首及びシャレツLMS党首ともに連立政権樹立に必要な過半数の支持を得られていない旨の通知を改めて受けたパホル大統領は、首相候補指名を行わない意向を表明した。

●中道左派5党及び左派による連立協議【25日～30日】

連立交渉を再開したシャレツLMS党首は、まずはNSiに対して連立参加を再度呼びかけるも、NSiは、シャレツ氏率いる連立政権の不安定性等を理由に改めて参加を拒否したため、25日、シャレツ党首は、左派に対して連立交渉開始にかかる正式な書簡を発出した。翌26日、LMSは、左派との個別協議の後、中道左派のSMC、SD、SAB(アレンカ・ブラトゥシェク同盟)及びDeSUS(年金者党)を含む6政党による会合を開催し、詳細にわたり連立合意案について協議した。メセツ左派党首は、同合意案に関し、外

交・内政ともに全く受け入れられない内容が含まれるほか、国防費の増額等不要な歳出項目も多く、財政的な実現可能性に乏しいとコメントした。29日、上記6政党は再度14時間にわたる協議を実施した。

●国民議会、パホル大統領による第一回首相候補指名を行わない旨の通達を正式受理【27日】

国民議会が、パホル大統領より第一回目の首相候補指名を行わない旨の通達を正式に受理したことにより、翌28日から2週間にわたる第二回首相候補指名期間が開始され、議員団もしくは10名以上の議員グループによる指名が可能となった。

●左派による連立不参加の表明及び少数与党政府に対する支持の示唆【31日】

左派は、同党の理事会にて、中道左派政党5党との連立に参加するか否かの投票を行い、10名が賛成票を、21名が反対票を投じ(また数名が投票せず)、連立への参加を否決した。メセツ左派党首は、提示された合意案の内容に関し、公的医療制度の維持については左派の要求が受け入れられたが、その他、新リュブリャナ銀行の民営化阻止、国防費削減及び外交政策等の分野で共通項を見いだせなかったと説明。他方、今までの中道左派政党との交渉の結果、シャレツ氏を首相候補として指名し、また、同氏率いる少数与党政府に対する支持については、可能性が十分にあるとの立場を示した。

《今後の見通し》

○8月1日、シャレツLMS党首は、持続可能な協力体制が得られれば、少数与党政府の発足もあり得るとの立場を表明。シャレツLMS党首及びメセツ左派党首ともに、これまでの連立協議を評価し、8月第2週には協力協定締結に向けた協議を開始する予定。
○少数与党政府発足の可能性に関し、国内政治の評論家は、既存の中道左派政党を相手に国政未経験者のシャレツ氏がリーダーシップを発揮できるとは考えにくいと、現時点におけるスロベニアにおける少数与党政府発足は安定性に欠け持続可能ではないとの見方を示している。
○今後、8月10日までに首相候補が指名された場合、8月13日から17日の間に首相候補の投票が行われる予定だが、首相が決定しなかった場合は、さらに48時間の指名期間がある。それでもなお、首相が決定しなかった場合は、パホル大統領により議会が解散され総選挙が実施されることとなる。

〈その他内政〉

●スロベニア、2018年国防予算をGDP比1%まで引上げ【2日】

スロベニア政府は、2018年の国防予算を引き上げることを閣議決定し、財務省に対し、9月29日までに今次決定を執行することを指示した。カティッチ国防大臣は、今次閣議決定により、国防費をGDPの1%まで引き上げることを約束した旨説明した。政府系シンクタンクIMADが発表した春期経済観測を基準とすると、政府は国防費の予算を2200万ユーロ増額する必要があり、既に国防省に配分されている増額分1000万ユーロに加え、約1200万ユーロが今次決定により追加拠出されることとなる。

●国民議会、外交・EU・合同暫定委員会を設置【3日】

国民議会は、新政権樹立までの期間における緊急対応のために、外交政策委員会、EU委員会及び合同委員会の3つの暫定委員会を立ち上げた。クロアチアとの間での国境線確定問題に対処する外交政策委員会委員長には、社会民主党(SD)のマティヤジュ・ネメツ議員、EU委員会には現代中央党(SMC)のグレゴル・ペリッチ議員、全ての問題に対処する合同委員会の議長には、「マリヤン・シャレツ・リスト」党(LMS)のルディ・メドヴェド議員が任命された。これを以て、国民議会は正式な活動を開始することとなる。

●医療従事者法修正案が議会通過【10日】

国民議会は、非EU諸国出身の医師の雇用条件を緩和する医療従事者法修正案を賛成48票、反対12票で可決した。同法案は、保健大臣に対し、特別な状況において、非EU諸国出身の医師を雇用する権限を付与する内容であり、問題となっているリュブリャナ大学病院小児心臓外科における人員不足解消にも繋がる。本件法改正により、スロベニア語検定2級を有していない非EU諸国出身の医師も雇用可能となる。

●国民議会議長による地方選挙の公示【13日】

トニン国民議会議長は、本年11月18日の地方選挙実施を公示した。選挙は、212の自治体で実施され、4年間の任期で市長及び市議会議員を選出する。7月13日より立候補の受付が開始され、政党又は有権者グループが立候補の届け出を行うことが出来、投票の30日前に締め切られる。

【外政】

〈スロベニア・クロアチア間の国境線確定問題〉

●スロベニア、クロアチアによる国際仲裁裁判所の仲裁裁定の不履行に対し、欧州司法裁判所においてクロアチアを提訴【13日】

スロベニア政府は、リスボン条約第259条に基づき、クロアチアによる国際仲裁裁判所の仲裁裁定の不履行に対し、欧州司法裁判所においてクロアチアを提訴した。同条約259条によれば、EU加盟国は、他の加盟国がEU法に違反した場合に、欧州司法裁判所に提訴することが可能となっている。スロベニア政府は、クロアチア政府による仲裁裁定の不履行は、法の支配の原則に反し、スロベニアによるEU法の履行能力を弱体化させると共に、シェンゲン規則及び漁業に関する共通規則に違反するとして、今回の提訴に踏み切った。

〈その他の外政〉

●パホル大統領、3カ国首脳会合を開催【5日】

ゴリシュカ・ブルダにおいて、スロベニア、オーストリア及びクロアチアの大統領による三カ国首脳会合が開催され、EUの将来及びオーストリアEU議長国の優先課題等につき意見交換が行われた。パホル大統領及びキタロビッチ・クロアチア大統領は、オーストリア議長国の優先課題に支持を表明しつつも、スロベニア・クロアチア両国との間に関わる問題については、事前に相談をするよう要請した。移民問題については、3カ国大統領は、EUの対域外国境での警備強化を求めるEU首脳会談での合意に支持を表明しつつも、パホル大統領は、一方的な措置はドミノ効果をもたらす可能性があるとして警鐘を發した。



(Photo: Nebojša Tejič/大統領府HP)

スロベニアに迫る！⑦



日EU・EPA及びSPAに対する評価

(Photo: dpa/STA)

17日、東京にて、安倍総理大臣がトウスク欧州理事会議長及びユンカー欧州委員会委員長との間で日EU経済連携協定(EPA)及び戦略的パートナーシップ協定(SPA)に署名したのを受けて、同ニュースに関して当地主要紙は以下のとおり報じています。

スロベニア通信(STA)(17日付)

「EUと日本がトランプ米大統領の保護主義に対抗し、歴史的な貿易協定に署名」

17日、東京において、EUと日本は、相互に経済的利益をもたらすのみならず、トランプ米大統領の下で進められている米国の保護主義に対し、重要な政治的メッセージを送る歴史的な貿易協定に署名した。歴史上、世界最大となる自由経済圏は、世界のGDPの3分の1の富を創出することとなる。

署名に際し、安倍総理は「本件合意は、日本とEUが自由貿易のチャンピオンとして世界を牽引していく強い政治的意思を示すものである」と述べたのに対し、トウスク欧州理事会議長は「本日は、日本人及びヨーロッパ人のみならず、相互の信頼と協力を信じる全ての理性的な人々にとり良い日である」と述べた。

実際に、EUと日本は、戦略的パートナーシップと経済パートナーシップの2つの合意に署名した。次のステップは、日本及びEU諸国の国会における批准である。大きな問題は想定されず、これらの合意は、来年初頭にも発効する見通しである。また、本件合意は、気候変動への対処を明示的に記した最初の貿易協定となる。

日刊紙「Delo」(18日付)

「EU日本間の合意:保護主義では「保護」出来ない」

日本とEUは、段階的に99%の関税を撤廃することとなり、EU諸国の農産品の対日輸出を促進する

一方で、日本車に対する関税を軽減することとなる。専門家は、本件合意は、保護主義に対する明確な打撃となると分析している。EUと日本の首脳は、東京から米国に対し、トウスク欧州理事会議長の言葉を借りれば、「我々は、一緒に働くことにより、一層強力かつベターなものとなり、貿易は、関税や障壁のみではなく、価値観及び妥協が重要である」という明確なメッセージを発信した。

一方、両者は、投資紛争解決メカニズムを含む、複数の主要分野において交渉を継続していく必要がある。本件問題は、近年、大きな論争となっており、EUとカナダとの間の貿易協定署名に際しても障壁となった。欧州諸国の議会では、EUと日本は署名を急ぎすぎたとする見方もある。しかし、欧州委は、本件に関し、透明性かつバランスの取れた司法メカニズムに合意すべく交渉を進めていくとの立場を表明した。

フィナンツェ紙(20日付)

「日本との協定がスロベニア起業家にもたらす利益は何か」

本EPAの下、民間企業による年間総額10億ユーロの節約が期待される。EUの対日輸出では、関税引下げにより、主に衣料、化粧品、ビール、チーズ、ワイン、豚製品、菓子類等の輸出増加が期待され、またEUの対日輸入では、より安価な茶、魚介類、機械部品等が見込まれる。

スロベニアの対日輸出額は、2014年の3200万ユーロから2017年の1億2500万ユーロに急増。2017年、日本に輸出したスロベニア企業数は210社であり、その85%が中小企業である。また、同年、粉製品、スーツケース、洗濯機などを含む300品目以上の製品が日本に輸出された。これらの製品に対する関税引下げが輸出を押し上げると予測される。

スロベニアへの日本からの輸入品は主に自動車だが、そのほか機械、医療機材、鉄鋼、食料品及び飲料などもあり、2017年には合計600品目以上の製品が輸入された。

なお、本EPA署名を受け、日本へ既に輸出実績のあるスロベニア企業は、近年の日EU関係深化を歓迎し、本EPAの下、日本市場進出のさらなる事業展開に向けた意欲を示す一方で、日本側における貿易手続の厳格さ、日本企業が求める質の高さなどにどう対応していくかとの課題もあるとの反応を示した。(インタビューされた企業:「Cosylab」社(加速器システム開発)、「Vina Persolja」社(ワイン製造)、「Aerton」社(食品加工)、「Gea」社(食用油)等。)

●スロベニア外務省、マケドニア議会による国名問題にかかるギリシャとの合意批准を評価【6日】

スロベニア外務省は、マケドニア議会が、マケドニアの国名変更に関するギリシャとの合意を批准したことは、同問題の永続的な解決に向けたマケドニアの国会議員の決意を示すものとして評価した。合意発効のためにはイワノフ大統領による署名が必要となるが、仮に大統領が署名を拒否した場合も、最終的には国民投票の結果に委ねられることとなる。外務省は、今回の合意批准により、EU加盟交渉開始に向けた条件を満たすこととなり、スロベニアはマケドニアの加盟努力を支援していくとの方針を示した。

●ツェラル首相、「16+1」会合に出席【7日】

第7回「16+1」首脳会合に出席したツェラル首相は、スピーチにおいて、スロベニア政府は、本件枠組みの全てのパートナーとの間で緊密な協力を継続していくとして、アジアと欧州の連結強化を目的とした「一帯一路」の発展のために、コペル港は重要な役割を果たしていく用意があるとの方針を表明した。

また、本件会合のマージンにおいて、リュブリャナ大学スポーツ学部は、北京体育大学との間で、2022年北京冬季オリンピックに向け、ウインタースポーツ分野での協力強化及び知見共有に関する合意に署名した。また、本件会合のサイドイベントとして「ビジネス・フォーラム」も開催され、17ヶ国から1,500名が参加した。

また、ツェラル首相は、李克強・中国首相との間で二国間会談を行い、ツェラル首相は、会談後に「我々は、二国間の非常に良好な関係を確認した」とツイートした。李首相は、製薬業界、民間航空、観光及び一帯一路における協力の重要性を強調した。

●スロベニア、「国連グローバル・レスポンスビリティ・レポート」で第8位【9日】

2030年のSDGsの達成に向けた「国連グローバル・レスポンスビリティ・レポート」が発表され、スロベニアは対象国156ヶ国中の第8位に評価された。同レポートはSDGsの17の課題の達成状況を評価するもので、スロベニアは、全ての項目において進捗が見られ、特に貧困撲滅、質の高い教育の提供及びエネルギー源へのアクセスにおいては最高評価を受けた。スメルコル開発・戦略事業・結束担当大臣は、「このポジティブな傾向は、ゆっくりではあるものの、我々が正しい方向に進んでいることを示している一方で、2030年までの目標達成のためには更なる努力が必要である」と述べた。

●ツェラル首相、西バルカン首脳会合に出席【10日】

ロンドンで開催された西バルカン首脳会合に出席したツェラル首相は、「西バルカン諸国が加盟して初めてEUは完成された形となり、それは同地域の安定と未来を約束するものとなる」と述べた。また、同首相は、ベルリン・プロセスに参加している国々による前向きなアプローチが必要であり、EUに対しても具体的な役割を果たしていくことを要請した。他方、同首相は、西バルカン地域の国々に対しても、EU加盟条件を満たすために、責任を持って改革プロセスを進めることを期待すると強調した。



(Photo: Nebojša Tejić/STA)

●ツェラル首相、NATO首脳会合に出席【11日】

NATO首脳会合に出席したツェラル首相は、新政権は、国防費の増額に向けたコミットメントにつきより野心的なアプローチが必要であるとの考えを示した。同首相は、記者団に対し、本件首脳会合は、トランプ米大統領によるNATOへの批判により緊張した雰囲気の中で開始されたが、オープンな対話を通じて、NATO加盟国首脳は困難を乗り越えることが可能と確信していると述べた。

●外務副大臣、EU離脱担当大臣会合に出席【20日】

ミロシッチ外務副大臣は、ブリュッセルにて開催されたEU離脱担当大臣の会合に出席し、EU各国は、EUのバルニエ首席交渉官による、アイルランド国境問題に関するアイルランドとの結末、及び Hard BREXIT を含むあらゆるシナリオの可能性に対する準備を進めるべきとの立場を歓迎し、スロベニアに関しても、「合意に達しなかった場合に備えて準備を進めるべき」と述べた。同副大臣は、既に民間企業との協議等は開催されているが、英国に在住するスロベニア人(当館注:2015年の長期滞在者約3,500

人)への影響等に関するシナリオをさらに分析する必要があったとして、本年9月には、全関係省庁による協議を行うべきであると説明した。

●米大使、離任に際し、米スロベニア関係を評価【21日】

ハートリー駐スロベニア米大使は3年の任期終了に際し日刊「Večer」紙のインタビューに応じ、スロベニア米国関係を強固かつアクティブなものとして評価した。同大使は、ここ数年両国間のトップ政務レベルでの要人往来はなかったものの、要人往来は確実に実施していると説明。また、同大使は、EU及びNATOの加盟国であるスロベニアは、人権保護レベルも高い民主主義国家であるとして西側諸国と協調している国として評価した。さらに、米国が対スロベニア直接投資において第2位の投資国であることを強調し、スロベニアは、好立地及び整備されたインフラ、従業員の能力及び労働倫理の高さ等を活かして、さらにビジネス環境を向上する余地があるとの見解を示した。

●ITF、EU人道分野専門機関として認定【27日】

人間の安全保障強化のための国際信託基金(ITF)は、EUにより人道分野に携わる専門機関として認定された。同認定は、EUによる厳しい審査を経て行われるもので、現在12機関のみ認定を受けており、スロベニアではITFが初めて認定を受けるNGOとなる。ロウレンツッチITF事務局長は、同認定によりEUの人道支援事業を直接請け負うことが可能となり、また財政アクセスが簡素化され、地雷除去事業を含めよりスピーディな事業実施が可能となると歓迎した。

●ヴルシッチ峠ロシア兵捕虜追悼式典開催【28日】

ヴルシッチ峠にてオーストリア軍の軍用道路建設に強制的に従事させられていた際、雪崩事故で犠牲となったロシア兵捕虜追悼式典において、パホル大統領は、「永続的な平和を追求することが肝要である」と述べ追悼の意を表した。ノスコフ・ロシア・デジタル発展・通信・マスコミ大臣は、式典が行われたロシア礼拝堂があらゆる会合・式典に活用されていることを歓迎し、また同礼拝堂の維持に携わる地域住民含むスロベニア国民に対して感謝の意を表した。

なお、エリヤヴェツ外務大臣は、ノスコフ大臣と会談し、二国間経済協力を中心に協議した。2017年、両国間の貿易は前年比15%増加し、今後も経済貿易及び科学技術に関する政府間委員会の共同事業による二国間関係の深化が期待される。

発見スロベニア!

「Kodila」の生ハム ～伝統を守りながら～

シュンカ(Sunka)と呼ばれるスロベニアで昔から作られている生ハムを中心としたハム製品を製造する企業「Kodila」。25年前、現在のオーナーJanko Kodila氏の祖母方の故郷である現在の場所に移転してから事業を拡大し、現在は、38名を雇用し毎月約50トン生産しています。伝統的な手法を守りながら、先端的かつ環境に優しい燻製・熟成を取り入れて、質の高いハムを製造しています。



主力製品は、プレクムリエ地域の特製生ハム

(Prekmurka šunka)及びオツィヴィルケ



(Ocvirke)と呼ばれるラードから作ったクラッカー、乾燥熟成ステーキ肉、「神戸ポーク」とも言えるほど柔らかく、また上質な脂身が特徴的なマンガリツァ(Mangalica)豚の生ハム等。



建物の一階は「Kodila」社だけでなく、地域産品をまとめて販売するアンテナショップとなっています。



オーナーJanko Kodila氏は、「わが社のモットーは、「ko veš kaj ješ (when you know what

you eat)」。豚肉のトレーサビリティを徹底し、材料・施設にも気を使っている。例えば、ブナの木を直火にあぶっただけのスモークチップを使用し、熟成室には自然な風や泥壁を、味付けには肉、塩と胡椒のみを使用するなど。日本への輸出も視野に取り組んでいる」と意気込みを述べてくれました。

参考：Kodila社のHP：<http://www.kodila.si/>

● **欧州評議会議員会議、汚職疑惑によりイエリッチ国民党(SNS)党首らを追放【29日】**

欧州評議会議員会議(PACE)は、アゼルバイジャンを巡る汚職疑惑により、国民党(SNS)党首であるイエリッチ議員を含む14名の元欧州評議会議員(加盟国の国会議員から選出)を、同評議会及びPACEにおける活動から永久的に追放する決定を下した。同評議会によれば、これらの議員らは、欧州評議会におけるアゼルバイジャンに対する前向きな評価に貢献する見返りに、アゼルバイジャン政府より、金品を受け取ったとされている。本件決定に対し、イエリッチ議員は、かかる決定は偽情報に基づき、自分の評判を貶める試みであると述べた。

経済

〈夏季経済観測〉

● **中銀:2018年GDP成長率予測は4.6%【5日】**

中央銀行は、夏季経済見通しを発表し、スロベニアの2018年のGDP成長率の予測を冬季観測の4.2%から4.6%に上方修正すると共に、2019年は3.9%、2020年は3.4%とした。今次上方修正の理由として、国内及び国外における消費拡大及び輸出部門の生産能力拡大に向けた投資増加を挙げている。中銀は、雇用率の上昇や民間投資の増加等、好調な国内経済が牽引材料となりつつあると分析。

● **欧州委:GDP成長率予測は4.4%【12日】**

欧州委員会は、夏季経済見通しを発表し、2018年のスロベニアのGDP成長率を4.4%、2019年の成長率を3.5%とし、冬季経済見通しより、それぞれ0.2%及び0.1%下方修正した。2018年第一四半期の経済成長率は、2017年第四半期と比較し0.7%となり、2017年の第一四半期との比較では、5.0%の成長となった。傾向としては、外国市場における需要低下に伴い輸出は減少した一方で、国内消費及び投資増加により輸入は増加している。

〈NLB銀行民営化〉

● **政府、NLB銀行民営化につき閣議決定【13日】**

13日、スロベニア政府は、遅延していた新リュブリャナ銀行(NLB)の民営化を再開することを閣議決定した。同決定によれば、政府はNLBの株式25%プラス1株を保有し、本年中に株式の50%プラス1株、2019年末までに残りの株式を売却することとなる。欧州委は、2013年に実施されたNLBのベイルアウトの一環として、同行の民営化を要求してきており、今次閣議決定の内容は、本件に関する欧州委へ

の提案内容となる。エルマン財務大臣は、「欧州委が今次閣議決定に基づく、NLBの売却計画を許可する可能性は極めて高い」とコメントした。また、政府は、クロアチアにおけるNLBに対する訴訟により発生する可能性のある損益からNLBを保護する内容の法案を採択し、国民議会による審議に付託した。

● **欧州委、スロベニア政府の新たな民営化案に満足【24日】**

ヴェスタエアー(Margrethe Vestager)欧州委員会競争政策担当委員は、スロベニアの新たなNLB民営化提案に関し、満足の意を表明した。同委員は、クロアチアにおけるNLBに対する訴訟問題への対応等を含め提案書の詳細につき精査を行った後、最終的な判断を下すこととするが、現時点ではスロベニア政府の欧州委への協力及び提案内容ともに評価すると述べた。なお、日程は公表されていないが、近日中に最終結果が公表されるものと想定される。

〈その他の経済〉

● **コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業にかかる国民投票の運動家、再度提訴【10日】**

コペル〜ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業実施法案履行の是非を問う国民投票実施に向けた運動を主導した年金生活者のコヴァチッチ氏は、国民投票の実施において、全ての有権者の5分の1以上の賛成のみで、法律が無効となることを規定するスロベニア憲法第90条は民主主義の原則に反しているとして、最高裁判所に提訴した。

● **マリボル空港「SHS Aviation」社、公開説明会を急遽中止【25日】**

マリボル空港管理会社を所有する中国資本の「SHS Aviation」社のLingkun Meng代表は、周辺住民等を対象とした施設拡張計画に関する公開説明会を開催予定当日の開始直前に急遽中止した。地域の市民団体は、同区画計画による騒音・排気ガス等の環境への影響、また、周辺住民が同拡張計画プロセスに参画できないままに懸念を示した。同市民団体の代表は、同地域の開発ニーズは既存インフラで賄えると説明した上で、すでに地域の工業化で生活環境が悪化している中、本計画が実施された場合の更なる生活環境の悪化を危惧していると述べた。他方、ペルコ(Sasa Pelko)マリボル市副市長は、「SHS Aviation」社は毎月10万ユーロを国庫に納付しており、信用を損ねるほどの事態ではないと強調した。

発見！スロベニア

日本マンガ雑誌「Magnet」

今回は、日本のオリジナル漫画作品をスロベニア語に訳したマンガ雑誌「Magnet」を紹介します。

2016年12月、「Magnet Manga」グループは、初めての日本マンガ雑誌「Magnet」を刊行しました。同グループは、アニメ・漫画を通じた交流を目的とした非営利団体「Animov」の傘下にあるグループで、今では四半期ごとに同雑誌を500部ずつ発行しています。

翻訳・編集・発送作業の全てを8名のボランティアで行っており、80～100ページ程度の小雑誌「Magnet」では、日本語のオリジナル漫画作品を毎回2～3作品ずつスロベニア語に訳して発表・紹介しているほか、いくつかの日本文化関連のトピックも取り上げて、わかりやすく解説。現在、固定のファンを中心に販売していますが、同雑誌は、「Trafika」などのキオスク店舗、オンライン注文及びイベントでの販売等でも購入可能です(価格:1冊10€)。



<最新号の内容:>

日本のオリジナル漫画

☆「ppp」 by みゆき

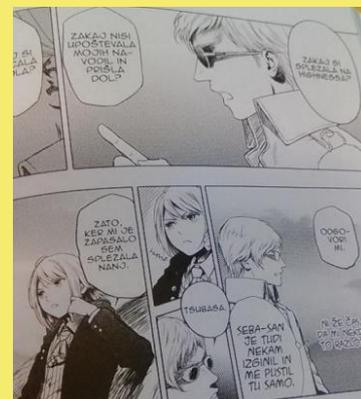
☆「Ragdol 4」by このえ

特集

☆コスプレ: 初心者のための「始め方とコツ」他

Katarina Kunstelj 編集長は、「今では、スロベニア人や他の外国人が書いたアニメや漫画が多く出回っていますが、長年のアニメ・漫画ファンはもとより、若い世代の読者の大半もやはり日本人が描いたストーリー及び原画を一番求めているのです」と、その雑誌を企画したきっかけを説明してくれました。

また、Katarina さんは、「英語ではなくスロベニア語で読むマンガは、スロベニア人にとってより親しみやすいものと確信していますが、まだ読者数は伸び悩んでいる」と率直に話してくれました。スロベニア市場が小さすぎる等の理由から、なかなか日本の代表的な作品を入手することは困難な事情がありますが、日本国内のイベントや pixiv 等のオンラインサイトで発表されるマンガの中には質の高い作品が多く、そういった作品を中心に、個々の作家さんにコンタクトを取って原稿を提供してもらっているそうです。



最後に、Katarina さんは、「今後はコアなファンだけでなく、幅広く一般の人々にも「Magnet」を楽しんで頂けるように頑張りたい」と抱負を語ってくれました。

ぜひ皆さんも機会があればご覧になってはいかがでしょうか。また、スロベニア語を学んでいらっしゃる方、マンガを通して勉強してみませんか？



(写真: 編集長の Katarina さん)

「Magnet」HP: <https://magnet-manga.net/>

軍事・治安

●偽造自爆ベルト所持のクロアチア人バス乗客への判決【17日】

コペル地区裁判所は、今年1月にドラゴニア国境検問所で、偽造自爆ベルトを所持していたクロアチア人バス乗客の男に対し、テロ関連違反(テロ目的のためのスロベニア渡航)により、禁錮3年2か月の判決を言い渡した。同男は、逮捕された際、首都リュブリャナに行き、脅威を引き起こすことを計画していた旨供述していた。検察官によると、同男はオンラインの動画を見て過激化し、自身をISILの支持者と考えるようになった。

●イタリアでの服役を終えたISILリクルーターの帰国【25日】

ISIL戦闘員をリクルートしたことで有罪判決を受け、イタリアで服役していたスロベニア人の男は、服役を終えてスロベニアの自宅に戻った。同男は、イタリアでISIL戦闘員2人を訓練したとして、2015年5月、スロベニアで拘束され、その後イタリアに引き渡されていた。

社会・文化・スポーツ

●世界平均を上回るスロベニアのアルコール消費量【18日】

国立公衆衛生研究所によると、2016年のスロベニアにおけるアルコールの消費量は前年に比べ減少したが、国際標準と比べると依然として高いままである。2016年、15歳以上のスロベニア人は1人あたりビール87リットル、ワイン48.4リットル、蒸留酒2.1リットルを消費した。これは10.5リットルの純粋なアルコール量に相当し、WHOによる世界平均1人あたりの消費量6.4リットルを上回る。なお、WHOによれば、2016年にアルコール消費量が推計された欧州地域43か国のうち、スロベニアは第11位。第1～3位はエストニア、リトアニア、チェコ、そしてフランスと続く。(当館注:日本は、6.86リットルで世界順位64位)

●2021年「欧州の美食文化圏」に選ばれる【20日】

スロベニアは、国際美食文化観光機関(IGCAT)より2021年の「欧州の美食文化圏(European Region of Gastronomy)」に選ばれた。IGCAT選考委員会は、スロベニアの美食分野における今までの実績を称え、

また、食品の質の高さ、食育、環境への配慮、自給自足能力等を評価したとコメントした。パク・スロベニア観光庁長官は、「同受賞は、スロベニアの食文化の促進開発に大きく寄与する」として、観光客誘致を視野に入れた美食文化促進に向けた意欲を示した。同計画には、スロベニア観光庁(STO)を含む16機関・団体が関わっており、総額430万ユーロが拠出されている。なお、本年10月8日、ブリュッセルにて授賞式が予定されている。

(参照:<Taste Slovenia>

<https://www.slovenia.info/en/things-to-do/food-and-wine/for-foodies:>)

●ツール・ド・フランス、ログリッチ選手4位【29日】

7日から29日にかけて開催された第105回ツール・ド・フランスにて、スロベニア人で元スキージャンプ選手でもあるプリモシュ・ログリッチ(Primož Roglič)選手が、全体で4位入賞を果たした。ログリッチ選手は、第19ステージ(走行距離約200Kmの山岳ステージ)にて1位を獲得し上位3位に入賞するも、その後の第20ステージ、第21ステージで惜しくも好結果を残せず、4位となった。しかし、今大会で同選手が残した成績はこれまでのスロベニア人選手が同大会で得た結果の中で最高記録となった。



(Photo: Bettini Photo, www.cyclingnews.com)

先月から寄稿をさせていただいている宮地藤雄です。何をやっている人?? というのが気になった方は、是非バックナンバー(「スロベニア・マンスリー」2018年6月号)をご覧ください。前回紹介しきれなかったリュブリャナでの楽しみ方を今回は紹介します。主だった名所は旧市街を中心に集積していることもあり、日帰りで足を伸ばす方が多いリュブリャナ。しかし、その魅力は日中だけでは感じ取ることができません。是非とも1泊して日没を眺め、そして朝、日の出とともに目覚める町を感じて下さい。



宮地藤雄 (ミヤチフジオ)
2013~2017 マウンテンランニング日本代表

リュブリャナの夕暮れと夜明け

「日没を眺めるならここしかない!」と僕がオススメするのはリュブリャナ城。旧市街を見下ろすように位置しており、城壁やベンチに腰掛けて、連日多くの人があるひと時を楽しんでいます。歩いても登れますし、ケーブルカーもあるので誰でも安心して訪れることが出来ます。また、城内も有料ですが見学できます。展望台に登ればリュブリャナの街はもちろん、緑あふれる山々を望むことができます。城内の広場ではコンサートや映画祭など様々なイベントも開催されており、モダンな空気と歴史ある街並みとのマッチングも大きな魅力です。日中も良いですが、できれば日暮れに合わせて訪れていただきたい場所です。



もう1つオススメしたいのがチボリ(ティボリ)公園。旧市街の西側に広がり、緑豊かで穏やかな豊かな気持ちになれる、散策にはぴったりの場所です。公園には博物館やスポーツ施設(なんとスキージャンプの練習施設まで!)、動物園も隣接しています。手前の公園エリアは整備された道が続き、裏山エリアにはトレイル(ハイキングコース)が縦横に走っています。早朝や夕暮れときはウォーキングやランニングをする人がたくさんおり、毎年4月頃の健康週間は、特に多くの人で賑わいます。その時に皆が目指すのが山の上にある教会。教会の手前には大きなカフェがあり、そこで皆くつろいでいます。スロヴェニアだけでなく、ヨーロッパでは多くの山に山小屋やカフェがあり、体を動かすだけでなく、気軽に自然に触れたり談笑をしながら優雅に過ごすそのライフスタイルはとても豊か。そのような環境が首都の中心部にあるというのは、リュブリャナの大きな魅力の1つだと思えます。

次回は少し早めの秋を先取りして、リュブリャナで楽しむスポーツについて紹介する予定です。

お楽しみに!

在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: info@s2.mofa.go.jp

Web: http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

info@s2.mofa.go.jp

★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、定期的なスロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介しており、また、5～6月は夏特集を掲載しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html

【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、在留届を提出してください。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

●スリに注意

リュブリャナ中心部等において、日本人観光客のスリ被害が発生しています。

被害場所で多いのは、三本橋、青空マーケット、リュブリャナ駅周辺、レストラン内(宿泊ホテルのレストランを含む)などです。また、リュブリャナ以外では、ブレッド城、ポストイナ洞窟、シュコツィアン洞窟でも被害が発生しています。

【広報文化関連】

●テレビ岩手制作「夢見るピノキオ」放映開始(全100話)

美しい映像とともに東北地方の様々な自然・文化・食・旅を紹介する番組です。

○放映チャンネル: RTV SLO 2

○放映日時: 隔週で平日(月～木)午後19:30頃～再放送中!(次回は8月13日(月)第61話)

詳しくは <http://4d.rtvsllo.si/program> をご覧下さい。

【広報文化関連】-続き

●**幻想尺八家・入江要介氏によるコンサート**

入江要介氏は、尺八の師範・作曲家で、今回のコンサートでは、伝統的な演奏に加え、現代的な曲や演奏スタイルも取り入れてオリジナル作品も含め7曲披露します。これまで世界40か国に招かれ演奏してきた入江氏の世界をお楽しみください！

○公演会場:リュブリャナ市役所内ホール (Rdeča dvorana Magistrata, Stritarjeva ulica 2, Ljubljana)

○公演日時:2018年8月30日(木)19時～(予定)※詳細については、後日当館のフェイスブックやホームページにてお知らせします。

○入場料:無料